

2024年6月5日の水曜集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

人の死の時を決めるのは、神ではなく、サタンですか？

【質問】

今回の学びの中では、「信者が教会の交わりから外されると…」の箇所で

「(3) 肉体の死の時を決める権限がサタンに戻される」、とあります。

私はいままで、人の寿命については、神様が権限を持っておられて、人がいつ死ぬのか、その時を決めるのは神様だ、とっておりましたので、少し混乱しています。

教会の交わりから外された信者や、未信者は、神ではなく、サタンによって死をコントロールされるのでしょうか？

【回答】

死そのものと、死の時を決める権限とを、分けて理解すると思います。

まず、死そのものについて…

神が造った世界に死はありませんでしたが、神は最初の人アダムに一つの命令を与え、それを破ったら「死ぬ」(創世記2:17)と言われました。そして、アダムがそれを破った結果、死ぬものとなりました(創世記3:17~19)。

このように、人間に生と死を与えたのは、神です。

そして、神の計画は、死を滅ぼすことです(I コリ15:26)。新天新地には、死はありません(黙示録21:4)

次に、死の時を決める権限について…

アダムを誘惑して神の命令に背かせ、人を死ぬものにさせたのは、サタンです。

アダムは地上の被造物の支配者でした。そのアダムが神に背き、サタンに従ったのです。

これにより、人と地上の被造世界は、サタンが支配する状態になりました。サタンは、「この世を支配する者」(ヨハネ14:30)と呼ばれています。

ヘブル2:14、サタンは「死の力を持つ者」とも呼ばれています。

この力は、死の時を決める権限です。

私たちが信仰によって救われる前は、自由気ままに生きているように思っていましたが、実はサタンの「暗闇の力」(コロサイ1:13)の下にあって、最後はサタンによって死の時を決められ、肉体を離れ、死者の霊魂となって、よみ(地獄)に下らねばなりませんでした。

しかし、救われて今や、信者の死の時は主イエスによって決められます。信者の死について、「イエスによって眠った」(I テサ4:14)と表現されるのは、その意味です。

2024年6月5日の水曜集会の後に寄せられた質問についてお答えします。

そして、信者の霊魂はよみに下ることなく、天の神のみもとに引き上げられます。
私たちは、神をほめたたえて次のように言うことができます。

「御父は、私たちを暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました」(コロサイ1:13)。

私たちは、今すでに御子イエスの支配の中に移されています。死の時を決めるのも、御子イエスです。

ですから、信者の死の時は、その人にとって最善の時なのです。これがわかると、信者にとって死は、恐怖ではなく、感謝なことであり、悲しみではなく、喜びです。

いかがでしょうか。この回答だけでは、不十分かもしれませんが、イエスのみわざがどれほど素晴らしいものか、これからも一緒に聖書を学んでまいりましょう。
質問を送ってくださり、ありがとうございました。

【質問者からの応答】

了解しました。

昨年、母を亡くしました。母は信者だったので、天に召されたことは確信していますが、私の介護や気付きなどが不十分だった点が多かったために、死を招いてしまったのだろうか、後悔の日々でした。

しかし、「信者の死の時を決めるのは御子イエスです」との内容に、心が救われました。